



アピール「日本国憲法施行70周年にあたって」

九条の会

日本国憲法は今年、施行70年を迎えました。この70年、この憲法を「改正」しようとする攻撃が絶え間なくおこなわれてきたにもかかわらず、「再び戦争をしない」と決意した私たちは「9条守れ」の運動をねばり強く展開し、これをはねかえしてきました。

しかしいま安倍政権は、アメリカに付き従った軍事同盟を背景に、「国益」、「安全」の口実のもと、集団的自衛権容認の閣議決定をおこなうとともに、秘密保護法制定、武器輸出三原則の撤廃、国家安全保障会議の設置、日米ガイドラインの締結、そして戦争法制定などを強行してきました。さらに通常国会冒頭の施政方針演説では「次なる70年に向かって」憲法「改正」を提案すると明言するなど、歴史逆行の暴走をエスカレートさせています。

いま、アメリカではトランプ政権が誕生し、アジアでも大国主義的行動や軍事的挑発が繰り返され、20世紀以来の世界がめざしてきた戦争違法化の流れに逆行する軽視できない動きが強まっています。

安倍政権の暴走は、こうした世界の逆流に便乗し、軍事力や恫喝が幅をきかす世界の中で、強国の一員としての座を占めたいという野望に基づいています。4月7日のトランプ政権によるシリア攻撃に対しても安倍首相はいち早く「米国政府の決意を支持する」ことを表明しています。こうした安倍政権の政治がアジアの緊張を高め、戦争と武力衝突の危険を拡大するものであることは明白です。

こうした流れに対して、世界でも、武力や恫喝による解決に反対する市民の声が、当のアメリカも含めて噴出しています。9条を掲げる私たちの運動は、平和な世界の構築に向けて、その先頭に立って積極的な役割を果たすべき立場にあります。

同時に、戦争法を廃止すること、南スーダンから自衛隊を即時撤退させること、沖縄辺野古、高江の基地建設を阻むこと、共謀罪法案の成立を許さないこと、何より明文改憲に「NO」をつきつけることは、日本国民を強権で統治して物言わぬ存在にしようとする安倍政権の企みを打破し、現状に危惧をもつ世界とりわけアジアの人々、国々に対して、9条をもつ日本の私たちに課せられた責任です。

戦争法廃止の運動のなかでは、立憲主義擁護の一致点にもとづいてかつてない共同が実現しました。南スーダンからの自衛隊施設部隊の撤退決定もその運動の成果です。安倍政権の暴走にストップをかけるのはこの共同をさらに大きく、強固なものにしていく以外にありません。そして安倍政権を退陣におこむことです。

13年前、九条の会の出発に際して発表した「アピール」の言葉を、いま、あらためて掲げます。「日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、『改憲』のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いまずぐ始めることを訴えます。」

2017年4月27日

5・3憲法集会 施行70年 いいね！日本国憲法 ー平和といのちと人権を！ー

憲法記念日に有明の東京臨海広域公園で開かれ、代田・九条の会から10名が参加。広い会場いっぱいの人と色とりどりのプラカードや旗。参加者は昨年より2万人多い5万5千人。多彩なスピーカーが熱く語った。

ファッション評論家のピーコさんは72歳にして初めて憲法の勉強に取り組んで自民党の草案はあまりにひどいことがわかった。改憲は絶対許しません！と述べた。池内了名大名誉教授は軍学協同の動きに対して学術会議は軍事研究をしないと決議したと語った。

落合恵子さん、伊藤真弁護士、植野妙実子中大憲法学教授は憲法がうたう主権在民、基本的人権、平和主義の重要性を説き、数の力で憲法を壊させてはならないと決意を表明。

韓国から駆け付けた季泰鎬（イ・テホ）朴槿恵退陣緊急国民行動・参与連帯政策局長は、国は違っても国の主人公は私たちだ。頑張ってくださいと呼びかけた。沖縄からは山城博治（基地の県内移設に反対する県民会議）さんが辺野古新基地、高江ヘリパッド反対で不当に逮捕拘留されたが、沖縄は絶対負けない！と訴えた。米倉洋子（共謀罪に反対する法律家団体連絡会）さんは、共謀罪は国民の言論、表現、行動を規制するものだ。絶対作らせてはいけなとアピールした。更に野党代表者が揃って登壇、憲法を

変えるのではなく、政治を変えなくてはならない。野党は市民と協力して断固改憲を阻止すると力強く訴えた。

最後に総がかり実行委員会の高田健さんが6月10日に国会前に集まり辺野古基地、共謀罪反対の声を挙げようと締めくくった。5万5千人が改憲反対の声を挙げたのに、メディアはほとんど取り上げなかったことを私は腹立たしく感じた。

（代田5丁目・日暮恵子）



横田基地前座り込み行動に参加

長い冬を乗り越え漸くの春、4月16日。ちょっと旅行、福生の駅前で全員一致の腹ごしらえをして歩くこととほぼ10分、長い塀が正面に、そして右折して、横田基地前のフレンドシップ・パークに到着。

既に集会は始まっており、それぞれの団体の代表の人たちのアピールが続いている。やはり基地に近い人は近いほど悲痛だ。オスプレイ撤去、新型オスプレイ配備の反対、など。自分たちがその場にいる間は離着陸はなかったようだが、その近辺で生活している人は気が気ではないと思われる。東京・麻布にも米軍基地があるようでそこここの横田基地との間では頻りに空の行き来があるそうだ。そして飛び入りの発言者の発言で早目の閉会（後で地域の宣伝に回るとのこと）。



自分はこのフェンスがどこまで続くかが気になり、みなと別れて歩いてみることにした。ところがとんでもなく尽きない塀。挫折して福生駅の隣・牛浜駅に出て帰路についた。

（梅丘1丁目・湯沢 勉）

＊ ＊ 横田基地の撤去を求める西多摩の会が、毎月第3日曜日に行っているすわりこみ行動に参加した。
4月の行動は100回目とのこと。

安倍首相の9条改憲構想を許さず

安倍首相は、施行70年を迎えた憲法記念日に九条の改憲を唐突に、一部の新聞紙上や日本会議系の集会で表明しました。憲法9条の第1項（戦争の放棄と、武力による威嚇や武力の行使の放棄）と第2項（戦力の不保持と交戦権の否認）を残しつつ、第3項を設け自衛隊を明文で書き込むというものです。

自衛隊は、戦争法（安保法制）のもとで、武器使用が付与された「駆けつけ警護」や「宿营地防護」等の任務を南スーダンでの国連PKO活動で実施しています。最近では「米艦船防護」も実施しました。こうした自衛隊を憲法上も認めることになれば、自衛隊は何の制約もなく海外で武力の行使ができることになります。

自民党改憲草案などをみれば、例えば第3項に「国際社会の平和と日本の平和及び独立を確保するため自衛隊を保持する」と書き加えることは想像に難くありません。そうなれば、自衛隊は、戦力そのものに変質し、9条第1項も第2項も死文化します。これこそが安倍政権の真の狙いではないでしょうか。

最近の世論調査では、どの調査でも6割前後が憲法9条の改正に反対しています。戦後70年、日本はどの国とも戦争せず、平和国家を目指して歩んでいます。ここに憲法9条の存在を認めているのです。今私たちが求めることは、憲法を活かすこと、憲法の厳格な実施ではないでしょうか。この思いに真っ向から対峙する安倍政権の改憲の企てを、私たちの声で打ち砕こうではありませんか。

（代田2丁目・坂本 功）

集会等の紹介

6月2日（金） 18:00～

日本国憲法施行70年「九条の会」講演会

九条の会呼びかけ人と世話人によるリレートーク

場所：杉並公会堂大ホール

主催：九条の会、九条の会東京連絡会

6月10日（土） 14:00～+

辺野古新基地建設と共謀罪新設を許さない！

国会包囲行動

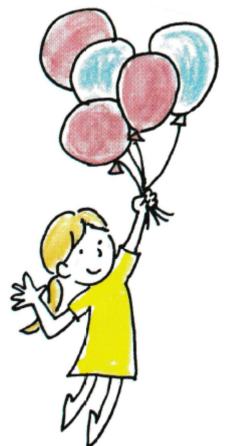
主催：基地の県内移設に反対する県民会議

「止めよう！ 辺野古 埋立て」国会包囲実行委員会

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

協賛：共謀罪NO！実行委員会

＊ ＊ 下北沢駅・西口 午後1時集合



～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++